

平成28年度

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年9月10日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2790200055		
法人名	株式会社ミクスル		
事業所名	グループホームおひさま		
サービス種類	認知症共同生活介護		
所在地	〒553-0007 大阪市福島区大開3丁目6番4号 フローラ二番館		
自己評価作成日	平成28年8月15日	評価結果市町村受理日	平成28年9月28日

## 【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/27/">http://www.kaigokensaku.jp/27/</a>
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224
訪問調査日	平成28年8月23日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>施設内は中庭を設けている為、日光の光が入り明るい環境にて生活が送れるように環境整備を行っており 入居者が事業所を「第2の我が家」と思えるように、アットホームな雰囲気作りに努め入居者のペースで生活が送れるように援助している。今後は入居者様のできる事・わかる事を生かした自立支援に力をいれ、これからも元気で安心して生活が送れるようにしていきたい。</p>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>駅から近く、買い物や散歩など日常生活に便利な住宅地に立地した、開設2年目を迎えるグループホームである。採光がよく明るく清潔感のある生活環境が提供され、中庭やベランダ等外気に触れるスペースもある。開設前から運営推進会議に町会長や地域住民の参加をお願いし、また、夏祭りや運動会など事業所の行事には近隣に案内を出し、地域に理解され地域の一員として交流できるように取り組んでいる。利用者のペースでゆったり過ごせる「第2の我が家」と感じられるような雰囲気づくりと支援に努め、開設時に職員と共に作り上げた理念の実践を目指している。開設前研修・年間計画に基づいた研修を実施し、職員の資質向上に取り組んでいる。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>事業所理念である入所者にとって「第2の我が家」となるように、安心して生活できるよう支援している</p>	<p>事業所独自の理念・基本方針を作成し、地域密着型サービスとしての意義を盛り込んでいる。開設時に職員と共に作り上げたため、職員の理解と浸透が図られている。また、事務所に掲示し、継続的に意識付けを行っている。会議等で、「第2の我が家」となるように個別支援を検討し、理念の実践に繋げている。</p>	
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している</p>	<p>散歩や買い物を通して近隣の方々と顔なじみになるように関係作りに努めている</p>	<p>開設前から運営推進会議に町会長や地域住民に参加してもらい、事業所への地域の理解が得られるように取り組んでいる。近隣に散歩や買い物に出かけ、地域と繋がりながら生活できるように支援している。事業所の夏祭りや運動会を開催する際には、近隣住民や幼稚園に案内を出し、交流の機会を持っている。介護相談を受け付け、機能を活かした地域貢献に努めている。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>地域の介護事業所連絡会を通して勉強会に参加したり地域の方々の介護相談等に尽力している</p>		

4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み                  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>推進会議を2か月に1回開催している。議題内容について参加メンバーより意見を頂戴して運営に反映している</p>	<p>利用者・町会長・地域住民・区役所職員・地域包括支援センター職員が参加し、2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。会議では、利用者の状況・行事等事業所の取り組み等を報告し、参加者から意見・情報提供を受けている。町会長など地域住民からの地域の動向や行事などについての情報や、区役所職員からの介護保険の制度や改定についての情報を、運営やサービスに反映している。</p>	<p>案内状の送付・会議内容の報告等により家族に運営推進会議への理解を深めると共に、今後も、家族への呼びかけを継続し、家族の参加が得られるように取り組まれることが望まれる。</p>
5	4	<p>○市町村との連携                  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。</p>	<p>地域包括の方が運営推進会議に参加しており、助言を頂戴している。</p>	<p>区役所職員・地域包括支援センター職員の運営推進会議への参加を通して、連携を図っている。地域包括支援センター主催の福島区介護ホーム連絡会に参加し、また、時には区役所職員の参加もあり、情報提供や意見交換を行っている。課題や困難事例などがあれば、担当窓口に問い合わせ、助言や情報を受けている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践                  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束禁止である事は職員は理解しているが、安全確保のためEV・居室の窓に関しては施錠している</p>	<p>身体拘束廃止についての方針を重要事項説明書に明記し、リスク説明書と共に契約時に家族に説明し理解を得ている。27年度の開設前研修と共に、28年度も年間研修計画に盛り込んで、年に2回「身体拘束廃止」について学ぶ機会を設けている。安全確保のためエレベーターの使用については開錠操作が必要であるが、利用者には外出の意向がある時はタイミングを見て対応し、閉塞感を感じないように努めている。</p>	

7		<p>○虐待防止の徹底                  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている</p>	<p>事業所内で虐待について学ぶ（研修）する機会を設けていると共に生活の中でも虐待の早期発見に努めている</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用                  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者・介護支援専門員は左記の事を理解しているため、家人相談時の際に後見人制度や金銭管理をする安心サポートを提案している</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得                  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居契約の前に契約を行い理解して頂くために、丁寧な説明に努めている</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映                  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族や入居者・外部から運営に関する意見を聞いた際は苦情報告書にて情報の共有・改善できるように努める</p>	<p>家族の来訪時に近況を報告し、意見や要望の聴取に努めている。把握した意見・要望は管理者に報告し、内容に応じて連絡ノートで共有したり、受付票に記録している。現在は個人的な意見・要望が多く、迅速な個別対応に努めている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映                  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>介護職員から改善等の意見がある際はフロア会議を通して改善に努めている</p>	<p>月に1回フロア会議を行い、業務改善等について職員が意見・提案を出し合い話し合っている。管理者も出席し、職員の意見・提案を把握すると共に、随時面談も行い、個別に意見を聞く機会も設けている。また、週に1回実施される責任者会議で、管理者が代表者に職員の意見・提案を伝える仕組みがある。</p>	

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>責任者会議を通して施設内の事を把握して必要な指示を管理者へ伝え意欲をもって仕事ができるように努めている</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>認知症実践者研修等に積極的に申し込みを行い職員の質の向上に努めている。又、内部研修の際も外部講師を招いて行っている</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>福島区の介護事業所連絡会に参加して情報の共有・勉強会に参加している</p>		

**II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援**

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所希望者の方々に面接を行う際に可能な限り家族・本人からの話を傾聴して情報を収集している</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所面接や契約を行う際に不安・疑問がないように説明に努めている</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>家族・担当ケアマネより依頼があった際に、入居者の情報を収集して事業所の対応を検討している</p>		

18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	現在は「介護する」「介護される」といった関係であるが、職員と入居者が共に共同生活が送れるように努力している		
19		○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	可能な限り家族らの面会・外出等の協力をいただいている。		
20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に関わっていた人々の面会や関係は継続できておらず、事業所内にて新たな関係作りに努めている	現状では、家族や親類との関係継続や、散歩や買い物時での馴染みの場所への外出にとどまっている。	入居時や入居後の情報収集により、可能な限り馴染みの人や場所を把握し、関係継続の支援につなげることを期待する。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係に基づき過ごす場所の席等の環境整備に努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了者が1名であるが他界している。今後については必要に応じて関係が途切れないように努めていく		

**Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント**

23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人本位の生活を送れるように支援に努めているが、現時点ではまだ、十分ではない。	大部分の利用者については、思いや意向の表出が可能である。現状では食事についての要望が多く、食事会議で伝え、反映できるように努めている。思いや意向の把握が困難な利用者については、家族からの情報や意見を参考に、本人の視点に立って検討している。	今後も利用者一人一人の思いや意向の把握に努め、個別支援に活かされることを期待する。
----	---	---	---	---	---

24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入居前の面接により生活歴等の情報を収集しており本人がその人らしく生活できるよう支援している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録を通して入居者の1日の流れを把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロアー会議を通して入居者に関する情報の共有や課題について話し合い解決に努めている	サービス計画書は、毎月モニタリングを行い、定期的には6カ月に1回見直しを行っている。見直しの際には、担当者会議を開催し、家族・介護職員・看護師・ケアマネジャーが参加し、かかりつけ医の意見は往診時に確認している。家族が出席できない場合は、面会時や電話で意向や要望を確認している。	サービス計画見直し時には、モニタリングと共に再アセスメントを行い、課題抽出を行うことが望まれる。利用者の生活の様子の記述に加え、計画とサービス実施の整合性が把握できる記録の工夫を期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・水分・食事・バイタル等を記入して入居者の様子の変化に気付けるように努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて人員配置を変更したり法人内のサービスを使えるように提案・調整を行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	福島区にあるボランティア又は社会協議会を通して生活の質の向上に努めている		

30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している</p>	<p>入居前に主治医選択 の際に、家族・入居 者の希望を聞かせて もらい、希望する病 院に受診・往診でき るように努めている</p>	<p>入居時に意向を確認 し、利用者・家族の 希望に応じた受診支 援に努めている。内 科・心療内科は、利 用者が希望するかか りつけ医による定期 的な往診を、また、 歯科も必要に応じて 往診を受けられる体 制がある。他科につ いては通院で受診 し、家族が同行でき ない場合等は、職員 が対応している。往 診内容は往診記録 に、通院受診につい ては個人記録に記録 し、連絡ノートで職 員が情報を共有して いる。家族には、必 要に応じて電話等で 報告している。</p>	
31		<p>○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪 問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者 が適切な受診や看護を受けられるよう支援 している</p>	<p>事業所内にて看護職 員を配置している 為、入居者の体調に 変化があった際は適 切に判断し主治医と 連携を取っている</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院できる ように、病院関係者との情報交換や相談に 努めている。又は、そうした場合に備えて病 院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入居者が入院した際 は、家族・病院相談 員と連携を行い環境 が変化するデメリット を伝え早期退院で きるように努めてい る</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所ですることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居前契約の際に左 記の事を説明・同意 書を取り相談してい る。又、必要時にな った際は再度説明を 行うようにしてい る</p>	<p>「看取りに関する指 針」を作成し、契約 時に説明し同意を得 ている。現在までに 事例はない。重度 化・看取りの段階を 迎えた場合は、かか りつけ医から説明の 上、事業所でする事 ・できない等も含め て再度説明を行 い、家族の意向に 沿った支援を行う方 針である。</p>	

34		<p>○急変や事故発生時の備え                  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時の際、マニュアルを作成して必要時の際には、マニュアル通りできるように努めている。</p>		
35	13	<p>○災害対策                  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害マニュアルを作成して、誰もが対応できるように行っている。又、年2回火災訓練を行っている</p>	<p>27年度は2回、昼間想定で、1回は消防署立ち合いで、もう1回は自主訓練で利用者も参加して、総合火災訓練を行った。28年度は、夜間想定も加えて、利用者も参加して実践的な訓練を2回行う計画である。災害マニュアルを作成し、職員に回覧し周知を図っている。緊急連絡用の連絡網も作成している。備蓄も整備し、内容や賞味期限などを一覧表で管理している。</p>	

**IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援**

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保                  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>接遇において職員同士気をつけているが、接遇向上のため施設内研修を行っている。</p>	<p>プライバシー保護・接遇についても、27年度の開設前研修と、28年度の年間研修計画に盛り込んで学ぶ機会を設けている。気になる言葉かけや対応があれば、職員間で注意を促している。個人記録類は事務所の施錠できる書庫に保管し、写真の掲載については契約時に文書で意向を確認する等、個人情報の適切な管理に努めている。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援                  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>声かけを工夫して入居者が選択できるように努めている。</p>		

38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者各々のペースで生活できるよう声かけ等を行っているが、入居者の希望を踏まえて生活支援はできていない</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>自宅から服を持参して頂き本人が着たい物を着用してもらっている。自己にてできない人に関しては毎日同じ物を着ないように努めている</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事を一緒に食べ話をしながら食べるようにしている。また食事準備や片付けを共に行えるように声かけ等を一緒に行っていく</p>	<p>炊飯とみそ汁類の準備はフロアで行い、厨房で調理された副食と共に、フロアで盛り付け・配膳している。利用者の摂食状況や嗜好については食事会議で伝え、改善や反映に努めている。盛り付け・下膳・食器洗い等、利用者の希望や力量に応じて参加できるように支援している。また、職員も同席して、談笑しながら同じ食事を摂り、家庭的な雰囲気ですぐに食事が楽しめるように取り組んでいる。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>厨房と連携を行い栄養バランスが整ったメニューを提供している。又、入居者の水分量・食事量を把握できるように努めている</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>口腔内の清潔を保つために毎食後口腔ケアを促している。又、必要に応じて歯科往診を依頼している</p>		

43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄のパターンを把握して、トイレの声かけ・誘導を行いトイレ内にて排泄できるよう促している。</p>	<p>排泄チェック表で排泄状況や排泄パターンを把握し、必要に応じて声かけ・誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。状態の変化等により介助方法や排泄用品の検討が必要な場合は、職員間でも話し合い、家族にも説明の上、現状に即した支援に取り組んでいる。ドアの開閉時、声かけ・誘導時等の羞恥心への配慮については、周知徹底している。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>便秘にならないよう飲食物の工夫や水分・活動を取り入れながら生活支援を行っている。それでも便秘が続く場合は主治医へ相談している</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入居者希望曜日・時間に応じて対応は困難であるが週2～3回程度入浴できるように努めている。</p>	<p>基本的には週に2～3回入浴できるように支援している。異性介助を嫌がる利用者には同性で対応している。入浴拒否が強い利用者はなく、声かけなどの工夫で対応している。必要な場合は2人介助を行い、安全に入浴できるように支援している。時には入浴剤を使用し、入浴を楽しむ工夫もしている。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>入居者のペースで生活できるように援助を行っている。各々のペースで離床や臥床をされている。</p>		

47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>カルテに薬剤情報をまとめ一覧できるように行っているが、全職員は把握できていないので、できるように努めていく</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>生活の中でできる範囲での役割ができるように努めていく</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>生活の中で心身機能を維持するために散歩等の外出等を取り入れている。個人での希望の際は家族と相談して調整を行っている</p>	<p>天候や希望に応じて、近隣への散歩や買い物に出かけられるように支援している。花見など、季節を感じる外出も企画している。中庭・ベランダなども活用し、外気浴や気分転換の機会も設けている。身体機能の低下予防や生活の活性化のための活動の一つとして、外出の会を増やすことを検討している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭は事業所にて保管して散歩や買い物時の際にほしい物を購入しているようにしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>入居者本人の希望がある際は電話連絡できるようにしている</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>中庭を設けている為、施設内全体に日光が入り明るい環境作りである。また生活の中で不要な物を設置せず混乱を招く環境作りをしないよう努めている</p>	<p>窓からの採光がよく、明るく清潔感のある共用空間である。テーブル席・ソファコーナーを配置し、思い思いに過ごせるように配慮している。利用者と共に作成した作品を壁に飾り、季節感を採り入れている。また、キッチンも設置され、生活感がある。中庭・ベランダなど、外気に触れ気分転換が図れるスペースもある。</p>	

53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり                  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>入居者同士での交流が図れるように共用部分にソファやテレビを設置している。一人になりたい時は自室に戻って頂くようにしている</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮                  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時の際、可能な限り居室内には自宅で使用していた物を持参して頂き環境の変化が少ない状態で入居できるよう家族と相談・調整している</p>	<p>設置されたクロゼットとベッド以外は、家族の協力をお願いし、使い慣れた家具や道具等の持ち込みを勧めている。机・椅子・筆筒・仏壇・写真等、馴染みのもの・思い入れのあるものが持ち込まれ、その人らしく居心地よく過ごせる環境づくりを支援している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり                  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物内部に事故要員である不要な物品は置かないように環境整備に努めている。又、自室が分かるように色分けをしている</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面 がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情 や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聞いており信頼関係ができて いる	○	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない